

件名	第6回泊地域小さな拠点検討協議会	
日時	2017年2月22日(水)18:30~20:20	
場所	湯梨浜町中央公民館泊分館	
出席者 (敬称略)	(委員10名) 朝日田卓朗、石沼友、岩本馨、山田志伸、鷺野星夫、田嶋昭彦、遠藤公章、 渡邊由佳、中原政喜、石井美佳代 (オブザーバー) ・区長1名 小浜区長 賀須井長美 ・県中部総合事務所地域振興局 栃本リーダー、久保田係長 ・地域おこし協力隊 辺美礼 (事務局) 湯梨浜町役場みらい創造室 山根副町長、岩崎室長、谷岡主事 計17名	
決定事項 (合意事項)		
次回までの 調整事項		
配布資料	第6回泊地域小さな拠点検討協議会会議資料、社協のりあいバス運行事業、買物支援サービスの例	

■会長あいさつ

(会長)町長と語る会が先日行われた。小さな拠点の話もあったし、町長からは、分譲地等の話も前向きに検討していきたいという話があったが、泊地域で需要があるのかな、という心配もされていた。他の参加者からは買い物に困っているという意見もあがっていた。我々が協議会で話し合っている内容は、住民の方が困っていることであるので、解決できるようにしていきたい。みなさんよろしくお願ひします。

これからは、具体的な話に入っていく。前回、ある程度項目が絞込みされて、「買い物ができる環境づくり」、「住む場所、人をどう増やしていくか」に焦点をあてていく。住む場所が出来れば子ども増えてくると思っている。協議会で認識を一致させる意味でも、店舗なども位置について地図を見ながら検討していきたい。

■「小さな拠点推進事業」、「小さな拠点施設整備事業」の今後の取り組みについて

1. 店舗の設置・運営について ※資料にそって進行

(会長)買物ができない人たちに対する支援として、今、湯梨浜町全域でされている乗り合いバスについてご説明をいただきたい。

(委員)社協の運行している乗り合いバス事業は、コンピューター(13人乗り)を利用し、羽合・泊地域、また、東郷地域で運行している。これは、買い物支援だけでなく、通院、役場、銀行にも利用いただける。ただ、渡りはだめ(複数の目的地に続けて行けない)ということに制度上なっており、点と点しか結べないのが現状。有料にすると法にかかるので、年会費1,000円のみで運行している。

今日現在で今年度は28名が利用されている(羽合6名、泊11名、東郷11名)。利用状況は、羽合・泊地域が1回平均8.6人。基本的に対象は一人で乗り降り、買い物ができる方となっていて、原則最寄のバス停が乗降地となるが、困難な場合には広い場所であれば自宅近くまで行くことになっている。

他に買い物代行も行っている。介護認定を受けている人は、ヘルパーさんが買い物代行しますし、また、有償ボランティア「助さん」(1時間500円)の活用も可能。買い物同行については、ホームヘルプサービスを利用されている方に対しては、社協独自で「いきいきふれあいショッピング」介護保険外のものとして実施している。

(会長)助さんの利用状況はどの程度か。

(委員)買物の利用は今年度には無く、雪かき、墓清掃等で利用されている。

(委員)バスを利用されている方の要介護度はどの程度か。

(委員)要支援2程度か。事前に面接をして、判断している。一人で乗り降り、買い物ができるかが基準。店の中までの付き添いは出来ないが乗降の支援は可能。介護度は身体的な部分

だけの問題ではないので、何ともいえない。

(委員)足腰はある程度しっかりしている方が対象ということか。

(委員)その通り。

(会長)独居の方が多いのか。

(委員)その通り。

(会長)一旦話を戻して、委員さんが提案してくださった漁港周辺とはどのあたりか。

(委員)新港辺りだが、広さ的に難しいかなと考えた時に、原川の西側、民地だが更地になっているので、利用できるのではないかと思います。

(会長)確かにインターの近くだしもったいない。協議会では持続できる運営を考えていかなくてはいけない。考えるだけして、誰かがするのだろう、ということで終わるのではなく理想ではなく、やはり経営なども検討していく必要がある。

(委員)店舗に、どんな商品を置いて欲しいのかなど、アンケートを取った方がいい。

(会長)マーケティングが必要と言うことか。

(委員)その通り。

(委員)協議会が始まって気になって色々なところを見ている。青谷のウェルネスではいろんな方が買いにくる。コンビニサイズでもドラッグストア等があればいいなと思う。智頭駅前でもコンパクトに店舗も揃っていて、泊にもあればいいなと思った。小さなスーパーのようなイメージ。あと、建物の集約の話もあるので、集会所や行政手続きが集ればいいかなと思う。運営形態については、地元の事業者指定管理者になってもらったり、昼に空いている主婦などに声をかけても良いと思う。泊以外の人にも来てもらうには、9号線沿い、泊庁舎辺りが良いと思う。

(会長)確かに、9号線沿いはいいが、集落の高齢者が行くのは難しいかも知れない。庁舎は、耐震工事はしているのか。

(事務局)していない。

(会長)方向性が決まれば工事などしていくと言うことか。

(事務局)その通り。昭和56年以前のものについては、検査して必要に応じて工事をする必要がある。昭和56年以降のものは、つわぶき荘、はまなすは新しい。

(会長)公民館はいつ建設されたのか。

(委員)役場庁舎は昭和46年、公民館は昭和52年、漁村センターは確か昭和56年の建設だが、基準より前だったと思われる。

(事務局)昭和56年秋が基準になるので、春に建設された漁村センターはギリギリ基準に満たない。

(委員)小さくてもいいから、兼用すれば、移動できない人に対して移動販売に来てもらって、「こんなものが欲しい」というものを伝えれば、次回持ってきてもらう、という形でいいかな、と思う。地産地消というのは、たくさん作りすぎた作物を捨てるのはもったいないから、安くても売ればいいなと思う。

(会長)野菜は、加工品でなければ保健所など通さなくてもいいのか。

(委員)生鮮食品であれば問題ない。

(会長)安くても捨てるよりはいいし、買う側も良いと思う。

(委員)がっかりされない程度の品揃えを考えていきたいし、人を雇うことになると思うので、楽な時間帯から始めて徐々に拡大していくイメージが良いと思う。

(会長)確かに魅力は必要だ。ある程度の魅力が無ければ人は来ないだろうし、運営にかかる経費(人件費も含めて)もどう考えるかを組み込んでいく必要がある。役場のあたりであれば、確かに郵便局や合銀もあるので利便性は良いと思う。吉田医院も、外部から来てもらっていた先生が来なくなり、吉田先生以外居なくなってしまって、どんどん大変になってくる。その点について役場で医師の確保など対策はされないのか。

(事務局)必要最低限の地域医療に対する措置はあると思われる。

(会長)ただ店舗が出来ただけだとスーパーに勝てる競争力はないので、若い人は勤め先からの帰りに買ってしまう。その意識を変えてもらう。少し高くても、(店舗を)残すという思いを持ってもらえる方法を考えていかなくてはいけない。協議会が始まるまでは、そんな

意識は薄かったが、若い世代に意識を持ってもらって、魅力のあるものを考えなくてはいけないし、20年後を思うと今から考えなくてはならないと思う。場所は、役場泊庁舎から新港にかけて、やはり車で来る人もいると思うので、場所としては考えている。

(会長)委員さんは、動き出す前のこと、初期費用などについて考えておられると思う。

(委員)雲南市のコミュニティを視察に行くことになっているし、運営上の問題点は聞くことができる。場所さえ決まればその方法をそのまま活用できれば良いと思う。

(委員)食べ物があればいいと思う。卵が無いとなったときに、羽合までいくのは大変だな、と思う。

(会長)JAさんがやっている中で、参考にあるものはないか。片柴のあたりのポプラはコンビニと普通の店が一緒になっていないか。

(委員)ライフラインがひとつ決め手になり、地域のために残しておこうという店舗はいくつかある。東伯のところは地域住民と話をして閉店することになった。やはり、地域の方に使ってもらえなくては店舗として成り立っていかない。ある地域は赤字でも続けている。やはり地域の人に利用してもらえることが大事。

(会長)泊への進出は提案できるか。

(委員)ポプラ自体がローソンに押されて、ローソンポプラという形になっている。

(委員)前からずっと、小さな拠点施設の中に店舗を併設してほしいと言っている。泊地域は商業が厳しい状況になっている。協同にしても個人にしても、一から始めると初期投資を回収できるかは厳しい状況。初期投資を抑えるためにも公設民営みたいな形ですることが望ましいと思う。当時の泊商工会で甲亀観光というレストランを潮風の丘に建てた。出資は1,000万円だったが、建てるのに約3,000万円の借入を行った。売り上げは最初あったが、初期投資の回収ができない、人件費もかかるので、チュウブさんに経営権を移譲して、今は閉店という状態。羽合にカフェイッポがあるが、元々、当時の羽合商工会が共同出資でレストランゆめひろを建てたが、2~3年で経営が立ち行かなくなったという経緯があるので、やはり、建物は公設で建てて出来るだけ初期投資を抑えることが望ましいと思う。

(会長)どう運営したら成り立つのかという見解も必要なので、実現可能な店舗を作らなくてはいけない。本当に人件費が払えるのか、成り立つだけの売り上げを出さなくてはいけない。カフェイッポも厳しい部分も実際ある。

皆さんからご意見をいただいて、次の会までに少しずつ絞っていくことが出来ればと思う。委員さんの意見の「小さな拠点という施設をつくる中に」というのは、高齢者が住むようなものをイメージしているのか。

(委員)泊庁舎、公民館、漁村センター、青少年の家が変わるものを新築もしくは、集約するのかが検討事項の一つだと思うが、新築する場合に、その中に店舗を併設することが望ましいと思う。本当はコンビニが入れば良いと思うが難しいだろう。病院の中に売店があるようなイメージをしている。

(会長)小さな拠点で考えていくなかで、4つの建物の機能を集約すると共に、地域住民の生活についても検討するのか。

(事務局)両方ですね。箱物だけではなくて、住民が集る仕組みも検討いただきたい。

(会長)昔のつわぶき荘のように高齢者が住む場所を作る、ということ一つの考え方であってもいいということか。

(事務局)幅広に検討していただければ良いと思う。段々、協議会でまとめていただく。

(会長)絞っていきながら、そんな案が出て良いということか。店舗については、この意見を集約していけば良いと思われる。

(ワザバー)店舗を構えることが案として上がっているが、各地で買い物について、同じような検討をされている。店舗だけでなく、バスでの移送や、移動販売などもある。店舗を構えるということはリスクもあると思うので、どんな人を対象に、どういう風に支援するのか、と言った視点で考えていった方がよいのではないかと感じた。一番簡単なのは、移動販売だが、若い人に来てもらうには、店舗があって魅力も必要だと思うが、仕事帰りの時間まで営業となると時間の問題もある。どういった人にどういった支援をするのかをまず考えたほうが良いと思うので、資料も参考にさせていただきたい。各地で考えられている、買い物支援の事例を説明する。

(ワザバー)買い物支援の方法は大きく分けて4つの形態がある。

①移動販売、②商品を届ける、③送迎、④店舗の設置

①移動販売：町内でも複数店舗が移動販売をされていて、店舗まで行かなくてもいいし直接見ることが出来る。ただ、利用者のほうも販売を持続させるために努力が必要になっている。

②商品を届ける：買い物代行は、他県では集落支援員、地域おこし協力隊がするという例もあるし、シルバー人材センターの活用もある。また、宅配サービスなどもあるが、直接選びたいと言う人にとっては選択されにくい、ネット販売もハードルが高いものではあるが、徐々に伸びている買い物の方法になっている。

③送迎：拠点施設で集りがある日に合わせて送迎をしてもらうという方法。

④店舗の設置：泊地区に店舗を設置した場合、遠い地区の方の利用をどのように支援していくかが課題。

消費者から見た、それぞれのメリット、デメリットをレジュメにまとめているので参考にしてください。

(会長)店舗を運営するとなればある程度厳しい目線で考えなくてはいけない。理想と現実が合わないことがある。

(委員)見られた事例でいい例があれば教えていただきたい。

(ワザバー)移動販売の話は色々聞いているが、厳しいという声を聞いている。高知県の山間部で住民が出資して合同会社を設立し、ギリギリで運営されているところがある。若い人は里にでて仕事帰りに帰ってきてしまうので、地元の動けない方のお店になってしまう。何とか惣菜など売れる商品を出すことで成り立っているとのこと。会員には特典をつけるなどされているようだ。

(会長)やってみただけダメだったという例はあるか。

(ワザバー)琴浦町で、ポプラと漁協がセットで移動販売していたがポプラが撤退してしまった。

(ワザバー)やはり移動販売は不利な点もあるし、徐々に買わなくなる。松崎のよどやは、高齢者のサロンを週2回で日用品、ハッピーバーディが商品を置いている。あそこは割り切って歩いてこられる方を対象にしている。

(会長)あそこで毎日やるとリスクがあるということかも知れない。

(ワザバー)ハッピーバーディについては引き取りもしてもらっているし、あとは日用品なので、マイナスは無いと思う。

■住宅用地の確保について

(会長)インター付近がいいのではと挙げているが、複数空き地があるので、そのイメージかと思う。

(委員)場所としてはある程度まとまった区画というと9号線沿いしかないのかなと思う。一里浜線は町有地があるが、ただ南側が崖になっているのでどうかなとは思っている。ある程度行政区が出来るほうがいいのかと思う。古くからある地域は財産管理の問題もでるのでそのように提案した。空き家については所有者の了解が得られないという問題もあるので未知数だと思う。最近の傾向では、ある程度売れる見込みがたってから、分譲していくというものがあり、それもひとつの手かなと思う。

(会長)行政区というところの程度のイメージか。

(委員)小浜くらいのイメージ。

(会長)浜山ができたときは「園」の行政区に含まれていたが、30軒くらいになった時に、財産の問題が浮上し、浜山は浜山で独立した行政区を作ることになった。

実際、羽合の田後や長瀬地区では分譲計画が始まれば10区画程度であればすぐに売れる。民間の不動産業者からすれば供給が追いつかないレベルで、泊もそうなればいいが、どうすればいいのか考える必要がある。

(委員)一里浜線が石脇から坂はあるが、一通り一本で繋がっている道になるので、そこを利用してもいいのではないかと思う。施設にしても住宅にしても。

(委員)あえて挙げるのであれば、小さな拠点化で集約していくことを考えると、青少年の家の跡地、園の駅裏の田んぼを使っても良いと思う。宇野の磯なぎ団地もまだ残っていて、売

れないところは売れないので、ある程度魅力がある場所に区画をしていかななくては行けない。泊の中でも駐車場がない場所もあるが、今のライフスタイルで求められる広さもあると思うので、泊であっても不自由ないなという面積で区画整理すれば集まるのではないかなと思う。

(会長)20年ほど前に、浜山団地周辺で計画があったが、話が流れた。高低差があったからか。

(委員)一部用地買収ができなかった。

(会長)入ってもらうには魅力が必要だという問題もあるが、どんな人に入ってもらいたいかということを考える必要がある。私としては、子育て世代の家族に入りたい。

(委員)やはり子育て世代に入りたいと思う。今年度、泊地域で生まれた(予定含め)子は8名とのこと。もし来年度7名以下だったら、国や県の基準でいくと複式学級といって、一人の先生で2つの学年が勉強するという段階に来ている。宅地造成をして子育て世帯に来てもらうように町長と語る会でも述べた。本当に喫緊の課題だと思っている。

(会長)町で50万円の新築支援があるが、どうしても羽合エリアで作られる。泊地域で上乗せも考えてみようかと町長も話されていた。泊地域に住む場合の経済的な支援やバックアップがないと外から来た人にとっては弱いかなと思う。

磯なぎ団地も、ここ3年程で少し増えているが、100万円の補助を出していると聞いた。

(事務局)数軒家が建っている方がイメージできるというのも理由だと思う。町の施策としては、町の持っている団地は早く整理したいということで、100万円の補助を出している。町長と語る会での主旨は、町内でも泊のような人口が相当減っているエリアは複数あり、補助について調整したいという方向性になっている。羽合でも宇野は(人口が)減っているし、東郷でも地区によって大きく違う。

(会長)ここだけに関わらず、色々な地区で困っていると思うので、考えていただきたい。

(委員)大きな話がうまくいかなかった時に諦めるのではなくて、小さな所から考えていくこともいいかなと言う旨を提案として書いた。

(会長)空き家の相談などは銀行に無いかな。

(委員)相談はない。こちらから声かけもするが、そのままがいいという回答があればそれ以上おススメすることはできない。商売気がある不動産業者さんとかいらっしやればいいが。

(会長)登記の仕事をしているが、やはり泊という業者は引いてしまう。流通がないイメージを持ってらっしゃる。

私は、やはり泊インター辺りで、駅から近いほうが良いと思う。浜山団地ほどの規模のイメージだが、今は年齢層が高くなっている。町営団地は入れ替わりがあり、空いてもすぐに埋まる状況で、子ども世代も居る。町営団地、町営住宅はニーズがあるので、増やして欲しいと思う。やはり、高齢者については集合住宅のようなものの整備をいただければと思う。地震もあって、ある程度集合住宅的なところで見守りもあれば、子どもとしては預けられるかなと思う。

(委員)11月25日に商工会と行政との懇談会があった。泊地域の人口問題の問題について投げかけたところ、町長は「宅地造成供給の要望が多かった。どこかいいところをさがしている。町としては、宅地造成する限り売却できるようにしなくては行けない。泊地域に残りたいが、土地がないという話も聞いているので、力を入れていかなければと思っている。旧泊村を見渡し、浜山団地からはまなすの延長で宇谷に近い砂山を削れば、宇谷とのつながり、一体感も持てると思っている。」と回答されたし、町長と語る会でも泊地域の宅地醸成にも前向きに検討したいとの声もあった。来年度には山陰道が鳥取西インターまで開通し、鳥取市の中心街まで30分以内で着く。10年以内には北条道路も整備されるという状況で、交通の利便性は良くなるので、あの辺りを整備していただきたい。行政としては売れないことが恐いと思うので、住民も知恵を絞っていったらと思う。一戸建てではなく、町営住宅の1棟(20~30軒)建てていただければ良いと思う。

(委員)同じ意見。私がこちらに来た当初は泊4区の空き家に住んでいた。家賃という形で契約だったし、改修せずにそのまま利用した。私の場合は、泊に住まなくては行けない前提で、町営住宅では独居はダメだったので、そこに決めた。

(委員)私のエリアは旧石脇や原や泊地域に住んでいた方、Iターンの方も今は住んでおられる。元々別荘として建てておられて、移ってこられた。

- (事務局)景色が良かったから移り住んだと聞いている。
- (委員)園から駅の下の通りは難しいと思う。大きな道路に近いところであれば良いと思う。雪も大変だった。浜山辺りが便利だと思う。
- (会長)民間と行政が分譲するのでは売り出し方が違う。マリンスポーツやロケーションを宣伝して、売り出せば良いと思う。
- (委員)一里浜の点滅信号と宇谷の間は、山になっているが、そこは何か。
- (会長)町長が言っているのはそのエリアのこと。砂山で民地。今までもこの山を削って宅地などにしている。インターもJRもあってよい場所だと思う。
- (委員)東西1時間でつなげられるようになれば、通勤にも便利になるだろうし、地価も上がると思う。
- (委員)インターも近いし良いと思う。東郷も区画整理したところは旧地区から離れている。新しい行政区になっている。中興寺は、最初60軒ほどだったが、造成したりして徐々に増やして120軒ほどになった。いっぺんにはせずに、何年かかけて広げた。役場ではなく個人で造成していった。地区の若い子もその土地で買っているし、新しい人も入ってくる。
- (委員)中興寺は立地がよい。駅も小学校も近い。
- (会長)こちらはそれにプラス、インターもある。
- (委員)若い人をターゲットにするのであればインターは良い立地だと思う。
- (会長)後は規模や宣伝の仕方が問題だと思う。
- (委員)赤碕のキラリタウンもまだ残っている。
- (会長)土地があるのであれば期を分けて広げていって良いと思う。
- (区長)皆さん、宅地を増やす方向を考えていると思うが、いかに人口減少のスピードを落とすかを検討する必要があると思う。小浜の場合には30世帯あるが、あと20年したら、確実に空き家になるところが15軒くらいある。私の家もそのひとつで、その家をどうするか、人に住んでもらえるようにきちんとしていかななくてはいけないなと思っているし、区の人でも心配している。家を増やしていけるのか不明に思う。土地は皆持て余している。今はお金を払って管理してもらっているし、耕作放棄地もたくさんある。家を買った人には好きなだけ土地を使って良いというような特典をつけるなど、売り出したらどうかと思う。田舎の売りは土地で、都会の人は持っていない。平屋でも広い土地を皆さん持っているで、どちらが豊かなのか価値観が変わってくると思う。
- (会長)あるものに価値を見出してくれる人に来てもらえればいい。
- (オガザン)空き家がたくさんあるし、若い人の中にはリノベーションを好まれる人が多い。空き家を使って店舗や住宅に活用してもらえるようにしても良いと思う。泊にお試し住宅を作ってまずは来てもらうのもいいかと思う。東郷は「たみ」に人が集っているが、泊には行ったことがない、という人が多い。見てもらえればいいところだと感じると思うので、イベントのような形でまず来てもらっても良いと思う。
- (会長)今日挙げられた意見を踏まえて次に生かしたい。造成地、住むところなどもどんな人に住んでもらいたいかなどに絞って意見を出していければと思う。

次回：視察（波多コミュニティ協議会）兼会議3月22日 9：30公民館泊分館出発予定